

(4) 舞台芸術コース

教科科目	科目の特長	科目の目標
声優実習Ⅰ (ナレーション)	発声の基本から簡単な歌唱、ナレーションの台詞術を学ぶ。	声を生みだすのは自分の身体。ストレッチ体操をしつかり行い、伸びやかで、豊かな声量をめざす。ニュース、ラジオCM、映像ナレーションの技術を身につける。
照明研究	舞台照明の基本的な技術の習得と表現方法を学ぶことを通じて、上演芸術に対する理解を深め表現力を高める。	調光操作卓の基本操作を身につけ、上演芸術における照明の役割を学び、自己表現に活かすことを目指す。
ヒップ・ホップ・ダンスⅠ	身体の使い方によって様々な表現ができることを伝え、楽しむことの延長に学びがあることを知る。	ダンスの基礎となるリズム感を養い、身体を使ってリズムを表現できるようになる。
ジャズダンスⅠ	毎回のレッスンでストレッチ、筋トレ、アイソレーション、リズムトレーニングを行い、身体をつくる。また、踊りに安定感を出すため、プリエやタンジュなどのバレエの基礎を使い軸づくりもしていく。毎回のレッスンの後半では振り付けも行い、踊る楽しさ、流れの中で踊る気持ち良さも実感してもらう。	カラダづくり、軸づくりに重点を置き、外側で踊るのではなく、内側から踊るという意識をはぐくみ、魅力的なダンサーになることをめざす。
音響研究	音響の基本、必要性、意義を実習を行いながら学ぶ。授業を通じ、自分でイベントの音響機器を操作できるようになるように学ぶ。	音の基礎を学び、自然の音と電気を使って増幅された音との違いを理解し、音響の役割が様々なシーンにおいての必要性を認識できるようにする。
ボーカル研究Ⅰ	呼吸法、体の使い方や読譜を学びながら、様々なジャンルの課題曲を中心に歌唱法を学ぶ。	正確な音程、リズム、表現法を学び、歌を通して各々の表現ができることをめざす。
ポピュラー音楽Ⅰ	書籍や映像、音源を用いてポピュラー音楽の歴史を学び、演奏するために必要な基本的な音楽理論を学び、課題曲を決めアンサンブルを行う。主にギターを使用する。	ポピュラー音楽の歴史や基本的な音楽理論に対する理解を深め、楽器の演奏を通して自分なりの表現ができるようにする。
演技実習Ⅰ	発声・滑舌・間・リズム感・身体表現などを演劇ワークショップや演技を通じて学び、心・技・体の鍛錬を一つ一つ積み重ねていく。	自らの肉体を通じて表現する(演じる)ために必要な感性・テクニックを習得する。そして、演技の基本を通して、コミュニケーション能力を育成する。
情報処理演習Ⅰ	パソコンの基礎知識から、Wordを活用し、知識と技術を身に付け操作できるようになると共に文部科学省後援の「文書デザイン検定試験」などの検定資格の取得を目指す。	授業を通して広く情報の視野を持ち、情報のモラルとセキュリティを理解し、その知識と技術を身に付ける。